

ちえふくらう



〒108-0014 東京都港区芝 5-27-5

NPO 法人 トータルライフサポート

TEL 03-3453-6210

FAX 03-3453-6208

【おひとりさまの散骨】

本日6月28日に支援員の矢崎と一緒にAさんの遺骨を横浜の海に散骨してきました。午後1時の出航の前に、Aさんが好きだったビールとおつまみに貝を準備して船に乗り込みました。

Aさんの遺骨は、パウダー状に粉骨していただき、水に溶ける紙の袋に包んでありました。その袋に、矢崎とそれぞれメッセージを書きました。

海洋散骨にはいくつか種類があり、ひとつは船をチャーターする貸切のもの、もうひとつは合同散骨で他の家族の方と一緒に散骨するもの、そして船に乗らずに委託して撒いてきてもらうものです。それぞれに費用が違ってきます。今日は合同散骨で、私たちの他に4組いらっしゃって、みなさん思い思いに揺れる船の中でメッセージを書かれていました。

ベイブリッジをくぐり、散骨の場所に到着しました。私たちは船室からデッキに出て、まずは粉骨していただいた遺骨を海に撒き、スタッフの方が用意いただいたお花を撒きました。そしてAさんが好きだったビールを2種類、おつまみの赤貝とミル貝を少量一緒に撒きました。Aさんが本当に好きだったのはホヤ貝だったのですが・・・

私は16年前に結婚式の仕事からお葬式の相談センターをはじめてから今まで何度も「お葬式や納骨は何のためにするのですか？」と質問をいただくことがあります。

私がこの16年間、多くの人の人生の最期に携わらせていただく中で感じることは、お葬式や納骨をする意味は、遺された人が故人の死を受け入れ、自分自身の心の折り合いをつけることなのだと考えます。もちろん、旅立つ本人が準備をすることで安心できることもあると思います。

支援員の矢崎が帰りの電車の中で「Aさんのお骨を海に撒くときに、しっかりと別れができたと思いました。Aさんの遺骨が自分の手から離れるときに、これで最期なのね、と感じました」と話していました。

私自身もビールを選ぶときに、最期にAさんとお寿司を食べた時に飲んでいたのはどこの銘柄だったっけかなあとか、赤貝だっけ、ミル貝だっけと考えていることや、矢崎がビールを海に流している時に、缶詰を開けて一緒に手向けることが、私にとってのグリーフワークになったように思います。

そして来月にはAさんの兄妹さんにAさんの遺言書に従い財産を届けに行ってきます。これでAさんから託された『まるごと支援』が完結します。私たちはAさんとの出会いから看取り、そしてお見送りをさせていただいたので完結できそうですが、Aさんの兄妹さんのグリーフが心配になります。おふたりはどのようにAさんの死を受け入れ折り合いをつけることができるのでしょうか。私にできることは何があるのでしょうか？ 三国浩晃